

市壮年団とのタウンミーティング

2020.1.25(土) 16:30~18:00

辰口福社会館 CC館棟 研修室

○参加者 市民 63名

○タウンミーティング議事録

【壮年団長開会あいさつ】

本日は多数の方にご参加いただき、また、常日頃は壮年団の活動に協力していただき、ありがとうございます。

年末に、根上地区で火災が3件あった。去年の11月に、壮年団の地域づくりの会で、119番のかけ方と、救急車と消防車が来るまでの対応、住宅火災から人命を守るということ、能美市消防団員の方から出前講座を受けた。火災はあってはいけないことだが、万が一あったときは、講義を活かして対応して頂きたい。

1年ほど前に芳珠病院に行った時に、待合ロビーで、あるおじいちゃんが、病院まではバスで来れるが帰りは時間が合わなくて帰れないと言っていた。のみバスが、タウンミーティングの意見などを受けて、改革されると聞いているが、どうなるのか今日は聞いてみたいと思っている。近年、高齢者の運転で事故が多くなっているが、のみバスの活用がうまくいけばいいと思っている。

【市長あいさつ、市政方針・主要施策説明】

今日は、新年になって初めてのタウンミーティングで、壮年団には昨年引き続き開催して頂いた。今年、本当に雪が少ない年で、こんなに雪が少ない年は初めてである。夏の水不足やカメムシの大量発生による農作物の被害を心配している。2年前のような大雪になると困るが、やはり自然の動態が変わることが心配だ。

今日は、1時間、市政の状況を皆様方にご紹介させていただいた後、ご質問を頂いて、そして懇親会の時にもいろんなお話を聞かせて頂き、意見交換をさせて頂きたいと思っている。

まず、2019年、昨年がどんな年だったかということを紹介すると、まず、2月に東海能美市の会を設立して頂いた。これまで、関東能美市の会というのがあって、2年前に関西能美市の会を設立して頂き、そして昨年東海能美市の会が設立された。能美市出身者の方で市外あるいは県外在住の方に能美市を応援してもらいたいと思い、このような会をつくっていただいた。皆様方のご親戚やご友人で関東、関西、東海にお住まいの方がいれば、ご入会を勧めて頂きたい。

そして、2月18日に立志式を挙行了。昨年の立志式から、能美市の素晴らしいところや、能力を活かして働ける場所がたくさんあるということを動画にして、生徒に見てもらっている。今年の立志式もこれをやりたいと思っている。

3月中旬の日曜日に、競歩の全日本大会が能美市内で開催される。多くの方々に競歩に興味を持ってもらうため、大会の前日に、アナウンサーの塚田誉さんと馬場桃子さんに来ていただきイベントを行い、大会当日には塚田さんと馬場さんに市民の皆さんと一緒に歩く応援ウォーキングイベントを開催した。

昨年は、企業誘致と地元企業の増床という話題がたくさんあった。まずひとつめは、(株)アイ・オー・データ機器の物流センターが能美根上スマートインターチェンジの傍に進出した。能美根上スマートインターチェンジは、一昨年の3月25日にオープンした。当初1日1,450台の交通量を見込んでいたが、現在、1日1,800台の利用があり、全国で、目標値に対して高いレベルで利用されているのは能美根上スマートインターチェンジしかないとお褒めを頂いている。スマートインターチェンジの開通で進出して頂いた第1号が、この(株)アイ・オー・データ機器です。

4月8日、九谷陶芸村に九谷焼担い手職人支援工房をオープンした。能美市には石川県九谷焼技術研修所という九谷焼の職人を育成する施設があるが、そこを卒業した人に引き続き能美市に残って作陶活動を続けてもらいたいという思いで、この施設をオープンした。県外や海外の方は、実際に九谷焼をつくっているところを見たことがある人は少ない。ここを見て頂くことで、九谷焼の技量の素晴らしさや作家さんの手さばきなどを直に見て頂き、九谷焼のファンを増やす観光施設としても活用していく。

辰口保育園の傍に辰口中央児童館をオープンした。木育と言って、木のぬくもりを感じてもらえるように木材を多用した建物にした。能美市の児童館で初めてボルダリングができる遊具もある。また、博物館を壊して、図書館を利用される方のために大きな駐車場を造成し利便性を確保した。

5月1日、令和に改元された。この日は大安ということもあって、婚姻届や出生届や住所変更届の受付のために特別に窓口を開け、ご希望の方は市長と記念撮影ができる撮影コーナーを設けた。

のみバスは新しい車両を3台購入し、九谷茶碗まつりにあわせてお披露目をした。ボディには8つの絵柄が描かれている。市内の8つの小学校の児童に、10年後も自慢したくなるような能美市の自然景観を選んでもらい、それをデザインしたもの。バスの中には、吊革にこのデザインを8つあしらって、その裏側にはデザインが選ばれた理由が書いてある。ぜひのみバスに乗って、見て頂きたい。

寺井郵便局のポストの上にモニュメントを載せてある。能美市が九谷焼産地であるということをもPRするため、九谷焼の絵皿を、集成材とカーボン繊維という能美市内の企業で製造されている材料で支えて、ポストの上にモニュメントにして設置した。市内の10の郵便局にこれを設置してある。

能美市消防団根上分団が、7月の石川県の操法大会で初優勝を果たした。これは大変すばらしい快挙で、旧町時代からも含めて初めての優勝となる。

秋には、小松市と一緒に九谷焼を核とした観光誘客を進めるためのイベントKUTANISMを開催した。

栗生工業団地にある㈱日本パーツセンターに増床して頂いた。

そして、9月29日に、鈴木雄介選手がドーハの競歩競技の世界選手権大会で見事金メダルを獲得した。このときは、辰口福祉会館でパブリックビューイングを設営して、約4時間にわたって応援し、優勝を皆さんとともにお祝いした。

火事やいろいろな災害が多いということで、機能別消防団というものを発足させた。普通の消防団との違いとしては、大きな自然災害や火事の時にだけ出動する消防団で、初年度は18名の方に登録して頂いた。この18名の内、多くは元分団や自衛消防団に所属していた方で、入団していただき、発足したものの。

いしかわ動物園が20周年を迎えた。能美市として動物園の正面ゲートにフォトスポットを設置した。多くの皆さんがここで写真を撮影されていた。

10月の台風19号、20号の被害で、長野県の新幹線車両センターが浸水し、新幹線車両10編成が浸水した。1編成が34億円と言われていて、全部廃車にするということを決めたと聞いている。ショッキングなニュースだった。

能美市の観光大使、特使の中で、音楽に携わっていらっしゃる方が何人もいらっしゃるが、その方々に一堂に集まっていただき、根上総合文化会館音楽ホールタントで、秋の調べと夢のハーモニーというコンサートイベントを開催した。元宝塚ジェンヌの大月さゆさんの素晴らしい歌声や、大野俊三さんという世界的なトランペッターの演奏で、素晴らしいコンサートとなった。

能美市と北陸先端科学技術大学院大学とシンクタンクが連携して取り組む農村DX（デジタルトランスフォーメーション）締結式を行った。来年度、スマート農業というものに力をいれていきたいと考えている。

そして、平田しおり選手がオリンピック出場の代表選手に内定した。

能美根上スマートインターチェンジのそばにスーパーホテルの進出が決定し、地鎮祭が11月18日に執り行われた。今、建築資材、人件費が高騰していることに伴い、少し落ち着いてから着工することになっている。

㈱ジャパンディスプレイの能美事業所の工場が一時休止するという事になったが、新たに㈱JOREDという会社に生まれ変わって新ラインが完成した。ここでは有機ELという画面をつくっている。液晶と有機ELの一番の違いは画質。とてもきれいな画像で、そして超薄型という特徴がある。主に自動車のインパネや、医療用の胃カメラの画像を有機ELの画面で写せないかとやっているそうで、今まで見えなかったものまで見えるようになるということで、いろんな分野で使われることが期待されている。

また、新しく造成した産業団地福島グランパークに進出した澁谷工業(株)は、主に金沢市、津幡町に工場があるが、初めて加賀地区に進出して頂いた。投資額は約80億円。石川県で最も大きい本社を置く会社に能美市に進出して頂いた。

(株)オンワード技研にも福島グランパークに進出して頂いた。(株)オンワード技研は、刃など工具の摩耗を防ぐコーティングなどの技術をもつ会社で、全国で約450社と取引されている。

12月に、民生児童委員93名に委嘱状を伝達した。ひとり暮らしの高齢者が元気で暮らしているかなどの調査や、子ども達の健やかな成長のためにいろんな活動がされている。このような方々のおかげで能美市は持続可能なまちづくりができています。

1月12日には成人式を挙行了。成人式開始前に、平田しおり選手に能美市スポーツ特別賞を授与した。

2月1日には、合併15周年を迎える。また、3月14日には、能美根上駅が5周年を迎える。その翌日に全日本競歩能美大会があり、この20キロメートル競技の日本人の優勝、もしくは準優勝で、成績の良かった方が東京オリンピック代表選手に内定するという、全国的にも注目を浴びる大会になる。その前日に多くの方にこの駅を利用してもらえるだろうということで、能美根上駅5周年をやりたいと考えて計画している。

6月1日には、聖火リレーが能美市内で行われる。根上野球場をスタートして根上学習センター前をゴールにしようということで計画している。多くの皆さんに沿道で声援を送っていただきたいと思っているので、ぜひご都合をつけて応援に来ていただきたいと思っている。

6月14日には、寺井小学校の隣の寺井体育館で全国銃剣道大会を予定している。私は寺井小学校出身だからこの大会があることは知っているが、能美市民の中には知らない人が多い。当日にはこの会場に自衛隊の車が80台くらい並ぶ。そして、この銃剣道というのはすごく迫力のある競技で、一度見に来ていただきたい。昨年度は、寺井体育館の隣の寺井地区公民館でフリーマーケットを開催し、ここへご来場の方には銃剣道大会もご覧頂こうということで企画した。今年もこの全国銃剣道大会に合わせていろんなイベントをやりたいと考えている。

7月25日には、平田しおり選手がオリンピック競技に出られる。優勝候補と言われている。このライフル競技はヨーロッパの方々にとっても人気のある競技だそうで、なかなかチケットが取れないそうである。

鈴木雄介選手が出場するのは、8月7日で、競歩競技は応援にチケットは必要なく、沿道で応援でき、無料と聞いている。テレビ中継の予定を確認しパブリックビューイングを実施したいと考えている。皆さんにも、競技場に行くかテレビの前で応援をしてもらいたい。

そして、秋には博物館がオープンする。冬にはスーパーホテルのオープンが予定さ

れている。来年の春には、クアハウス九谷が新しくなってオープンするという予定。カレンダーに沿って、出来事と今後の予定をお話しさせていただいた。

続いて、政策について説明します。2005年に能美市が誕生してから、能美市に引っ越してきた人は順調に伸び、引っ越していった人も増えている。移住定住が促進され、合併当初は48,282人だったが、一昨年は50,304人で、この14年間で人口が約2,000人増えてきた。ところが昨年は、一昨年と比べると37人減少した。能美市は社会増だが、自然減となっている。2005年に生まれてきた赤ちゃんは500人、ところが2019年には352人になった。生まれてくる赤ちゃんの人数が減ってきている。ところが亡くなる方は、2005年は335人だったのが、昨年は473人も亡くなった。日本全体の人口は減っている。市の勢いというものはいろんな指標で表せるが、やはり、私は人口だと思っている。人口を増やしていかないと、自治体の勢いというのは失われていく。能美市というのは人口を増やせるという力を持っている、ポテンシャルを持っている市だと考えているので、人口を増やしていきたいという思いをしている。2019年度予算の方針では、全ての施策が移住定住の促進につながるというもので、これを来年度もやってきたいという思いをしている。能美市を取り巻く環境については、今年合併15周年であり、オリパライヤー。人口減少、高齢化、人財・担い手不足の状況にあり、また、自然災害の脅威、アセットマネジメントなどが課題となっている。これに対して、いろんな施策に取り組み移住定住を促進させていこうとしている。

まず、子育て住環境の充実ということで、保育園や児童館の整備。それから、子育てに悩んでいる方や子どもを育てる上で生活が苦しいという方をサポートする母子・児童丸ごと支援というソフト事業もやっている。能美市は優良農地が多く、それを簡単にすぐ宅地にしていけないわけだが、人口減少している町で、民間所有の土地で宅地にできる土地を町会の皆さんと一緒に開発していけないかということで取り組んでいるのが里山イノベーション事業。また、交通インフラの充実ということで道路を整備している。大きな事業としては、根上野球場から北へ向かった先の手取川に橋が架かり、2023年には完成すると聞いている。その橋ができると将来的には、コマツ栗津工場から金沢港まで直結できる道路となる。それから、能美東西連絡道路の寺井図書館の前の道を整備している。今年の秋には寺井町の中は完成する予定となっている。辰口地区では、市道金剛寺岩内線の整備ができ、春には開通式を予定している。また、特に集落の中の空き家が増えている。町会町内会と協力しながら、危ない空き家の除去やきれいな空き家の利活用に取り組みたいと考えている。

そして、のみバスについては、わかりやすい・便利・早いをコンセプトにして、今年の春からダイヤ、ルート、停留所のリニューアルを予定している。連携ルートと、根上循環、寺井循環、辰口循環の4ルートに加えて、新たに里山ルートというものを作って、5ルートにする。基本的に、1時間に1本同じ時間にバスが来るようなダイ

ヤを考えている。それから、JR能美根上駅で電車との乗り継ぎ時間の短縮や、連携バスと循環バスとの乗り継ぎ時間の短縮をすること、最終便の時間を少し遅らせることも考えている。また、能美市は県内で外国人の人口比率が一番高いので、バスの中で英語のアナウンスも始めた。そして、春から、土日祝日に1日5便の観光地を回るバスの運行を始める予定である。

産業振興・企業誘致・人財不足対策について、新しい産業団地福島グランパークは、約23haでとても交通の利便が高いところで、今のところ2社に進出表明をして頂き、今後も多くの企業に進出して頂くために取り組んでいる。

また、スマート農業は農業機械による作業の自動化で、最近の機械は高性能だがとても値段が高い。スマートタイプのコンバインの標準的なもので約2,000万円と聞いている。それを買える人はなかなかいないので、色々な農作業の工程の、どの工程、どの分野からスマート化をするのがいいのか、来年1年かけて意見交換、調査をしながらスマート農業に取り組んでいきたいと考えている。

さきほど、郵便局のポストの上のモニュメントの話をしたが、郵便局にはオリジナルの消印があって、この消印を押すために全国から郵便局ファンが来られると聞いている。モニュメントの皿のデザインは、この各郵便局のオリジナルスタンプの絵柄をデザインしたもので、郵便局の近くに住んでいる九谷焼作家に描いてもらった。野々市から以南の市町で構成しているオール加賀会議という組織で、郵便局巡りの旅行商品づくりができないかと取り組んでいるが、能美市は一步先に進んでいる状況でとなっている。また、今年も、スポーツ大会や大きなまつりの時には、単独でなく、別のイベントと一緒に開催して、さらに観光客や市民の皆様楽しんでいただこうと計画している。

安心安全のまちづくりについて、救急車の出動件数、搬送人員が増えている。これは、高齢者の方々が運ばれる件数が大変多くなっていて、これは、日本全体に言えることで、能美市においても同じ状況になっている。交通事故も、2018年は死亡が1人でしたが、去年は2人が亡くなっている。これも、全国的に加害者だけでなく被害者に高齢者が多くなってきているという状況。

また、保育園の民営化については、幼稚園教育を望む声もあり、まず福島保育園を民営化して、これに対して皆様のご意見を聞きながら進めていく予定。

そして、来年秋に、新博物館がオープンする。何度でも訪れたいくなる手作りの博物館をコンセプトに、多くの方に来ていただける博物館を目指している。

これらの様々な事業を進めていくためには、市民力地域力が大切で、皆様のご理解ご協力をお願いしたい。

【意見交換】

(団員)

- 各校下の壮年団は、団員減少が課題となっている。これから先、校下壮年団に参画できない町も出てくると思う。能美市では壮年団の対象となる年齢層の人口はどうなっているか。
- また、若い人に対する定住施策はどんなものがあるか。

(市長)

- 壮年団の年代の人口は、20歳代が2,478人、30歳代が2,689人。10代が2,831人となっている。20歳代は、大学進学や就職先によって、住民票があっても市外に住んでいる方もいるかもしれないが、決して悲観するような状況ではないと思う。
- 若い人に対する定住施策の代表的なものとして、立志式の時に、中学2年生に市の魅力を伝える動画を見て頂いている。成人式でも見て頂いており、ホームページにも掲載している。また、現場ヒーローズという、働く若者を紹介する就職支援のサイトも開設している。ホームページでは、農業やスポーツをテーマにしたプロモーションビデオを掲載している。
- 皆さんからも、市の魅力の発信をお願いしたい。